

ようじえんだより 2018年度4月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目 253 番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

4月主題『つつまれる』

主題聖句：「子供たちをわたしのところに来させなさい。」…そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された マルコによる福音書10章14～16節

☆ 0～2歳児：神様の愛に包まれ守られていることを知る。保育者に守られ、生活や遊びを経験していく。一人ひとりの育ちを大切にされていることがわかり安心する。

☆ 3～5歳児：神様の愛に包まれていると感じながら過ごす。新入児も進級児も不安やほりきりを受け入れられて、新しい生活を始める。保育者と保護者の信頼の中で安心して育つ。

新たな出会いはストレスだらけ

新しい環境に身を置くことは、それだけで大変な緊張を強いられ、ストレスもたまるものです。私自身も2年前から十日町に住み始めて、最初は地名はもちろん東西南北の方向もわからず、何もわからない空間に放り出されたような感覚になりました。2年経って、ようやく「少しは慣れてきたかな」という思いになってきたところです。

新しい環境になることで子どもたちが急に泣きっぽくなったり不安がる様子が見られることがあります。これは「赤ちゃんがえり」と呼ばれる一種の退行現象で、誰にでも多かれ少なかれみられる現象です(小学校に進学する時も見られます)。こんな時には「メソメソ泣かない!」「しっかりしろ!」という叱咤よりも、「大丈夫だよ」「お迎えに行くからね」という励ましの声と抱きしめるスキンシップが大切になります。すると、いつの間にかそれぞれに生活に慣れ、楽しく過ごすようになっていきます。我が家で十日町での新生活に最初

に馴染んだのは間違いなく娘でした。子どもの生きる力を感じたものです。

光に包まれ、光に向かって伸びていく

以前、十日町では珍しく風が強い日にしおれかけた花に何気なく目が留まりました。しかし快晴の次の日、その花が太陽に向かって咲いている姿に感動したことがありました。聖書には神様の(イエス様の)愛を太陽の光になぞらえて表現された文章がたくさん出てきます。特にイエス様は、当時は「半人前」として扱われた子どもを抱き上げ、祝福し、「ここに神の国がある」とおっしゃいました。イエス様は子ども特有の素直さを評価しつつ、子どもを大人よりも劣った存在ではなく、一人の人間として大切にされました。私たち大人も子どもたち一人一人の生きる力や良さに目を留め、優しく子どもたちを包み込んでいきたいと願います。そのような愛の光に包まれて、子どもたちはのびやかに育っていくのだと私は信じています。

園長:久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙I 4章11節